

SmartSlide、LLMによる提案資料スライドの自動タグ付け機能をリリース

—フォルダ分け・命名規則不要で個社最適化された商品や訴求での検索・レコメンドが可能に—

属人的で難しいとされるソリューション営業を、提案資料の仕組み化でカンタンにする「SmartSlide」を展開する株式会社スマートスライド（東京都千代田区、代表取締役社長：白幡 健太郎、以下「SmartSlide」）は、新機能「公式資料の自動タグ付け機能」をリリースしたことをお知らせします。



■新機能概要

本機能では、LLM(大規模言語モデル)を活用して提案スライドの内容を深く理解し、AIが自動でタグ付けを行います。これにより、営業資料作成時における「フォルダ分け」や「命名規則」といった煩雑な管理に依存することなく、個社ごとの訴求軸や商品名、提案テーマに基づいた資料の検索・整理・レコメンドが可能になります。

■LLMを活用した「自動タグ付け機能」の仕組み

SmartSlideに「公式資料」として登録された資料に対し、LLMが各スライドを解析し以下のようなタグを自動的に付与します。

・商品名タグ(例: ○○クラウド、△△カメラ、□□代行サービスなど)

ファイル名や文中の表現、文脈から特定の商品名を特定し付与します。

・資料種別タグ(例: 提案書、ヒアリングシート、業務整理資料など)

構成や語彙から「どんな場面で使う資料か」を分類します。

・テーマ・課題タグ(例: 人事DX、営業効率化、店舗改善 など)

スライド内のストーリーや訴求内容から、自動的に提案テーマを抽出します。

これにより、「対象の資料が見つからない」、「フォルダが煩雑でブラックボックス化している」といった課題をSmartSlideが解消し、組織のナレッジを最大限に活用できる環境を提供します。

■活用するメリット

本機能により、以下のメリットが期待できます。

- ・資料検索の利便性によって提案スピードが向上
- ・埋もれがちなノウハウに簡単にアクセスでき、難しい案件でも提案対応できるように
- ・資料の活用ログとタグを組み合わせることで、使用頻度の高いコンテンツを正確に把握可能

■SmartSlideの今後の展望

SmartSlideでは、今後もタグ付け技術を基盤として、以下のような、さらなる機能拡張を計画しています。

- ・AIによる類似スライドの推薦機能
- ・タグの統計情報による提案トレンドの可視化
- ・資料活用の“スコア化”による営業ナレッジの棚卸し

SmartSlideは「スライドが知識資産になる」世界を目指し、今後もその機能を拡張し続けてまいります。

■株式会社スマートスライドについて

代表者：代表取締役 白幡健太郎

本社：東京都千代田区丸の内2丁目3-2 郵船ビルディング4階

URL：<https://smartslide.jp/company>